

『決意』

東京都

東競武道館

小学6年 伊東愛結

僕の性別は男です。髪の毛を伸ばしています。だから、よく女の子に間違われます。男だというと、驚かれると同時に、不思議そうな顔をされます。段々、男ですと否定をする事もなくなりました。なぜ僕が髪の毛を伸ばしているのかというと、「ヘアドネーション」と言って、髪の毛を寄付するためです。ヘアドネーションとは、病気などで髪の毛を失った子供に、無償でヘアウィッグをプレゼントする活動です。その活動を知ったのは、友達が寄付した事を教えてくれたからです。僕の髪の毛は、太く強く綺麗な髪の毛だと、お母さんに言われていました。だったら僕の髪の毛も寄付できるのではないかと思い伸ばし始めました。目標は五十cmです。一日二日では伸びません。何年も伸ばし続けなければなりません。伸ばし始めると、友達からは「気持ち悪い。」「格好悪い。」とバカにされ、学校の先生にも「いつ髪の毛を切るんだ?」「男のくせに。」「男らしくない。」など、色々言葉を投げかけられ、凄く辛い思いをしました。お母さんに「辛いなら、髪の毛を切ってもいいんだよ。」と言ってもらった時、正直切ってしまいたいと思いました。ですが、それと同時にヘアドネーションを待っている人の事が思い浮かびました。僕は髪の毛を伸ばしてバカにされている、ひょっとしたら髪の毛が無くて辛い思いをしている人がいるかもしれないと思ったのです。何より、一度決めた事をやり通したいという気持ちが強くなりました。僕が習っている剣道の先生の教えでもあります。「勝ち負けではない、続けることが大事。」だと、先生は言っています。僕が試合で負けても「よく頑張った！大したもんだ、素晴らしい試合だった！」と、先生はいつも僕を褒め讃えてくれます。その言葉のお陰で、また頑張ろう、稽古はとてつもないけど、いつでも僕を温かく見守り、支えてくれる先生から、もっと色々なことを学びたいと思うのです。初めて銅メダルをもらい、喜んでいた僕に「そんな色のメダルで喜ぶな！強くなりたければ坊主にしろ！髪の毛もメダルの色も格好悪い。」と言ってきた人もいました。ですがお母さんは、「どんな色のメダルだろうが、何回戦まで行こうが、そんなことはどうでもいい。自分が楽しいと思えればいいんだ。お母さんは愛結が一生懸命稽古を頑張ったのを知っている。全力で戦っても勝てない時はある。そんな時、悔しくて投げ出すのではなく、また頑張ろうと思う気持ちが大事なんだ。」とってくれました。初めて取った銅メダルをお母さんの首に掛けたら、涙を流して喜んでくれました。嫌なことを言われても、例え苦しくても、それを乗り越える強い心と身体を鍛えようと思いました。剣道の面打ちの様に、真っ直ぐに前を向いて打つ！刃筋正しく、堂々と打つ！誰もがうなずくような綺麗な一本を決めるには、一日二日素振りの練習をしても出来るものではありません。一生懸命稽古をして、少しずつ上達していくので、やり続け

なければなりません。少し綺麗に打てるようになってきても、いざ試合に出て、相手がいると、打たれる事が怖くなり避けてしまったり、真っ直ぐ打てなくなってしまいます。なので、もっともっと努力を積み重ね、どんな強い相手が来ても、真っ直ぐ綺麗に打つために、僕は強い心で胸を張って立ち向かっていきたいです。自分が決めた目標に向かって、努力の出来る強い心を鍛えたいです。そして、僕がその目標を達成する為に支えてくれる、先生方、稽古の相手をしてくれる友達や先輩、温かく見守り応援してくれるお母さん達に、常に感謝の気持ちを忘れず、努力し続けます。